

研修の質と量の記録となる受講単位を大切に

内山 充

前回のコラムで、生涯研修の特徴は、学び方を「自己設計」出来ることであり、まずは興味が持てる課題を選び、考えながら学ぶことで能率の良い研修になると書きました。今回は、研修の記録を考えて見たいと思います。

生涯にわたって継続する研修である以上、記録を残すことは、成果を判断する上にも、さらに次の、より良い設計をするためにも必要なことです。学んだことを、自分の流儀でよいですから記録することが大切です。日時・課題・講師等と同時に、できれば「自己評価」のメモを残すことが有用です。何を学んだか、それが理解できたか、役立ったかなど、簡単でよいから記録があると、将来きっと貴重な財産となります。

研修の量的な記録は「単位」で表されますが、単位は単なる数値ではなく、資質向上のパロメーターとなるものです。したがって、単位には資質向上に役立つという質的な保証も入っています。これは大学の教育課程を考えていただければお分かりになると思います。何を何単位取ったかによって卒業資格や学位を取得できることになりまますから、大学では単位を、教育と学習の、質と量の両面を保証するものとして取り扱っています。ですから、教える方も学ぶ方も、1単位といえどもおろそかには出来ないはずで

す。生涯研修でも全く同じで、単位は研修の質と量の記録です。受講者が受取る単位の価値は、研修の質の良し悪しで決まります。それを評価するのは受講者です。受講者は単位の数だけでなく、その価値を記録することによって、研修の成果を実感することができます。一方、研修を行なうプロバイダー側は、提供する研修の内容に責任を持たなければなりません。提供した研修内容が、受講者に対して有益であったという自信が持てるときに、自らが単位を受講者に給付するのが正しい姿です。このような単位であればこそ、プロバイダー相互間で価値を認め合い、認定などに際して同格の取扱ができることとなります。

単位は、受講者が努力と費用という対価を支払うことで取得できるのです。したがって、生涯研修の単位を大切に、必ず記録してください。単位はあるのだが記録がないので、いつ何を受講したのか分からないなどということでは、研修の受講が、あたら無駄になってしまいます。

薬剤師の生涯研修では、いつも申し上げているように、学びつつも、考えることを疎かにしないことが大切です。学習の内容を単位とともに記録して、それを基に、新たな考えや発想を自由に生み出して、生涯続く職務向上の努力に役立ててください。

(2008.6.8)